令和5(2023)年度 学　校　評　価　【　計　画　書　】

学校教育ビジョン

1．校　訓　「わたしも　みんなも　幸になる社会をつくる人になろう」

2．教育目標　「未来を拓く力　よりよく生きる力を育む」

3．めざす生徒像

や　やり抜く力をきたえ生きる生徒（主体性※③・向上心※③・自己有用感）

ま　学ぶ意欲を持ち共に努力する生徒（責任・忍耐力※③・問題解決力※①②）

し　集団の規律を守り高め合える生徒（思いやり・協働力※③・自己表現力※②）

ろ　労を惜しまず社会に貢献できる生徒（社会貢献・発信力※①②・創造力※②）

※①知識・技能の習得　②思考力・判断力・表現力の育成　③学びに向かう力・人間性の涵養

4．めざす教師像

・高め合う教師集団　・自己研鑽を積み、専門性を磨き合う教師

・身近な大人のモデル　・キャリア教育の一端、人生の先輩としての教師

・共感的人間関係　・弱い立場の人の心を理解する温かいまなざしの教師

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考
①教育課程・学習指導	学力向上に向けて組織的に取り組む。	・県基礎学力・全国学力調査の結果などから検証を行い，PDCAサイクルに基づいて、組織的に学力向上を図る。 ・授業の中での学習活動や帯タイムを利用し、学力の定着を図る。 ・学力調査問題を活用した授業改善を進める。 ・定期テストで学力調査問題を活用し、定着の様子をチェックする。	教務主任 新谷	・授業での生徒の様子は大変落ち着いており、また前向きに学習に取り組んでいる生徒がほとんどである。 ・学力の定着は十分とはいえない。 ・学年会と連携し帯タイムを利用した学習指導や家庭学習の指導に取り組んでいる。	・定期テストで利用した過去の学調査問題において、県平均と比較し、「平均並み」以上の教科数。 職員アンケート(成果指標) ・学調問題を生かした授業の取り組み(指導改善や定着に向けて)を行ったか。	各項目とも A=80%以上　B=70%以上 C=60%以上　D=60%未満	・学力調査、評価問題、定期テスト ・1，2学期末職員アンケート ・C，Dの時は、改善策を検討する。
	生徒が自ら学びに向かい、互いに深め合う授業づくり	**・単元（題材）におけるゴールを設定し、どのような学習過程で授業を進めていくかを生徒と共に考えていく。（単元（題材）をデザインする）** **・生徒の考えがさらに深まる発問を工夫する。** **・単元（題材）のゴールにどれだけ近づけたかを振り返るための振り返りシートを全教科で活用する。**	**研究主任 中村奈**	**・意欲的に学習に取り組む姿、良い雰囲気で話し合いをする姿、ICTを上手に活用する姿が見られる。** **・学んだことを次に活かす力、話し合いを深めること、自分なりの学びを考える力を育てていきたい。**	**生徒アンケート(成果指標)** **教職員アンケート(成果指標)**	**各項目とも** **A=80%以上　B=70%以上** **C=60%以上　D=60%未満**	**・1，2学期末生徒・教職員アンケート　アンケート** **・C，Dのときは，改善策を検討する。**
②生徒指導 ※いじめの未然防止	生活三原則である「時を守り・場を清め・礼を正す」を実践できる生徒を育てる。	・年度当初の集会で。生活三原則について確認したり、学級活動で生徒心得について確認したりする。 ・授業のベルスタや下校時刻を守ること、丁寧な清掃をすること、積極的なあいさつをすることを奨励する取り組みを行う。 ・生徒指導の3機能の視点を取り入れた授業を行う。	生徒指導主事 市河	・生徒の多くが生活三原則を意識しながら学校生活を送っている。しかし、生徒同士のつながりの希薄さや、個人的な発達の課題、家庭生活の乱れから、不登校になる生徒が多いことが現状の課題である。	生活アンケート（成果指標） ①授業の開始や下校時刻などの時間を守って行動できたか ②係や当番の仕事、清掃にまじめに取り組めたか。 ③積極的にあいさつをすることができたか。	各項目とも A=80%以上　B=70%以上 C=60%以上　D=60%未満	・1，2学期末生活アンケート ・C，Dのときは，改善策を検討する。
	いじめや嫌がらせなどが発生せず、みんなが安心して学校生活を送ることができる。	・毎日の記録ノートでのやりとりや生活アンケートの活用を通して生徒を見取り、小さな変化を見逃さず声掛けや面談を行うことで、生徒の悩みの早期発見に努める。 ・積極的な生徒指導を心がけ、仲間づくりや集団活動を推進する（学級会、生徒会、しろちゅうトーク）。 ・いじめを発見した場合は、いじめ問題対策チームを早急に開き、いじめ解決へ向けた取り組みを行う。	生徒指導主事 市河	・教員同士のこまめな情報交換や、学年会、相談の会などを通していじめの見逃しがないようにしている。 ・人間関係に悩む生徒も多く、陰口や仲間外れなどのいじめもある。	生活アンケート（努力目標） ①学校に行くのは楽しいと思いますか。 ②気になる嫌なこと（いじめなど）はなく、生活できていますか。 ③あなたは、まわりの人に親切にしたり、優しくしたりしていますか。	各項目とも A=80%以上 B=70%以上 C=60%以上 D=60%未満	・1，2学期末生活アンケートでAに達しなかった時には、取組を再検討する。
③キャリア教育・進路指導	系統的な生き方指導を通じて、主体的に進路選択する態度や能力の育成を図る。	・1年生での職業調べ、2年生での企業訪問や上級学校調べ、3年生での、体験入学や高校説明会などを通して、自己の興味や関心について知りながら、系統的にキャリア形成を図っていく。 ・特に3年生では、進路希望調査を利用して個々の進路希望を把握し、個に応じた進路情報を提供し、適切な進路選択ができるようにする。 ・全学年、キャリアパスポートを活用し、自身の目標を明確にしたり、成長を実感したりできるようにする。	進路指導主事 番場	・1年生での職業調べ、2年生での企業訪問や上級学校調べ、3年生の進路指導が中心となっている。また、引き続きキャリアパスポートを活用し、系統的な学習が求められている。	生徒アンケート（努力目標） 総合的な学習の時間、道徳、特活等を通して、自分の将来の生き方や進路について考えることができたか。	「自分の将来の生き方について考えることができた」と答えた生徒が A=80%以上　B=70%以上 C=60%以上　D=60%未満	・1，2学期末生徒アンケート ・C，Dのときは、改善策を検討する。
④保健管理	自己肯定感を高め、自分のことを自分で認められるようになることを目指す。	・学校保健委員会や思春期講座で、思春期の心について理解を深められるようにする。 ・心の健康に関わる指導の充実を図る。 ・生徒保健委員会で心の健康に関する取組を行う。 ・相談室や保健室、外部機関とも連携し困り感がある生徒との繋がりを切らないようにする。	保健主事 下出	思春期の心のコントロールが上手くできず、人間関係につまづいたり、不登校になる生徒がいる。 自分の弱い面を認めることができず、心の健康を崩す生徒がいる。	生徒アンケート【努力指標】 自分は自分のままでいいと思えますか。 自分にはよいところがあると思いますか。	各項目とも A=80%以上 B=70%以上 C=60%以上 D=60%未満	・1，2学期末生徒アンケート ・C，Dの時は、改善策を検討する。
⑤安全管理	交通マナーへの意識の向上を目指す。	・登下校時に自転車等の交通指導を行い、交通マナーへの意識を高める。 ・自転車検定を実施し、自転車の乗り方や道路標識についての知識を深める。 ・安全教室を実施し、事故の危険性を再認識すると同時に自転車の安全な乗り方を身に付ける。	交通・安全担当 中嶋	・登校時を中心に交通指導を行っているが、効果は一時的で、並列走行や斜め横断、ヘルメットの未着用等の行為をしている生徒もいる。 ・特に一斉下校時には、飛び出しや並列運転などの苦情が地域の方から寄せられている。	生徒アンケート(成果評価) 交通ルールを守って登下校ができたか。	交通ルールを守れたと答えた生徒が A=80以上 B=70%以上 C=60%以上 D=60%未満	・1,2学期末に生徒アンケート実施 ・C,Dの時は、改善策を検討する。
	危機管理に関して、教職員が様々な状況でも連携し生徒の安全を確保する。	・危機管理マニュアルを見直し、教職員に周知する。 ・年2回の避難訓練を実施し、災害時や非常時に落ち着いて行動できるようにする。 ・災害後に生徒を保護者へ引き渡すことに関するカードを作成する。また、引き渡しの手順についての校内研修会を実施する。 ・地域の防災訓練に、積極的に参加し、防災意識を高める。	防災担当 岡田	・生徒の防災意識は高まっている。 ・校舎の施錠をより一層徹底する。 ・様々な避難行動後に生徒を安全に保護者へ引き渡すため、教職員が連携して行動する必要がある。	教職員アンケート【努力指標】 避難訓練で、非常事態行動要領に即して適切に行動できたか。	避難訓練を通して、適切に行動できたと答えた教職員が A=80%以上　B=70%以上 C=60%以上　D=60%未満	・1，2学期末教職員アンケート ・C，Dのときは，改善策を検討する。
⑥特別支援教育	支援を必要とする生徒を対象に個に応じた支援を行えるよう支援体制を整える。	・個別の支援計画・シートや授業の様子をもとに支援が必要な生徒への見とりを行い、必要と考えられる支援を学校・保護者・本人と相談しながら決定し、実行していく。 ・必要に応じて外部機関（錦城特別支援学校など）に助言を求め、生徒支援の充実に努める。 ・一斉指導において、困り感がある生徒に寄り添う支援に努める。	特別支援教育コーディネーター 田中	・集団生活のなかで学習や対人関係などにつまずきを感じている生徒が複数見られるため、個に応じた支援を効果的に行う必要がある。個に応じた支援を具体的に進めてくためにケース会議を必要に応じて開き、支援策を検討している。	教職員アンケート（努力目標） 特別な支援を必要とする生徒に対し、適切な支援を行えたか。	特別な支援を必要とする生徒に対し、生徒の実態に応じた支援を行えたという教職員が A＝80%以上B＝70%以上 C＝60%以上D＝60%以上	・1学期末に教職員アンケート ・C，Dの時は、改善策を検討する。
⑦組織運営・業務改善	組織として業務の平準化を目指し、個々には業務改善を目指す。	・設定した目標退校時刻や定時退庁日により、業務改善の意識を高め、月80時間以上の超過勤務をなくすとともに、月45時間に近付けられるよう努力する。 ・協力、協働の職場づくりとともに、企画運営委員会や校務分掌部会で現状把握に努め、業務改善を推進する。	教頭 勝木	・協力、協働の意識が高く、地域や保護者からの信頼を得るよう丁寧に業務にあたっている。定時退庁日の徹底をはかるなどして業務改善に取り組んでいる。	教職員アンケート【努力目標】 個々の業務内容を見直し、業務改善につなげることができたか。	業務内容を見直し、超過勤務が少ない教職員の割合 A=90%以上　B=80%以上 C=70%以上　D=70%未満	・1，2学期末教職員アンケート ・C，Dのときは，改善策を検討する。
⑧研修 （若手教員早期育成プログラム含む）	校内研修を通して教職員の資質向上を図るため、日常的、定期的に校内研修を行う。	・定期的研修の実施。 ・日常的なOJTの実施。	教務主任 新谷	・定期的な研修は行われている。日常的OJTも行われているが研修内容を若手のニーズに合わせたものに工夫していく。 ・若手がメンターとなる研修を実施していく。	教職員アンケート（努力指標） 定期的・日常的に校内研修を行うことができたか。	「定期的・日常的に校内研修を行うことができた。」と答えた教職員の割合 A=80%以上　B=70%以上 C=60%以上　D=60%未満	・1，2学期末教職員アンケート ・C，Dのときは，改善策を検討する。
⑨保護者，地域との連携	教育活動の状況について適宜お知らせし、保護者や地域との連携に努め、学校への理解を深める。	・学校だより、学年だより、学級だよりの充実をはかる。 ・情報の把握と整理を行い、対応等について保護者メールでも適切に配信する。 ・ホームページの更新と活用をはかる。	教頭 勝木	・学校側からの各種の情報発信を行い、連携を図っている。緊急メール発信の体制も確立し、有効活用ができている。課題としているホームページの更新にも取り組んでいる。	保護者アンケート【成果指標】 学校だより等の便りやメール、ホームページなどで、学校の様子が明確かつ丁寧に伝わっているか。	「学校の様子がわかりやすい」と答えた保護者の割合 A=90%以上　B=80%以上 C=70%以上　D=70%未満	・1，2学期末保護者アンケート ・C，Dのときは，改善策を検討する。
⑩教育環境整備	校内安全点検を定期的に実施し、施設の安全性を高める。	・安全点検の計画に沿った実施と、不良箇所等への早期の対応を心がける。また、日常においても教職員が協働しながら校舎内外の見回りを行い、不良箇所の情報の把握と修繕および美化に努める。	教頭 勝木	・管理箇所を中心に、協力して環境整備に取り組んでいる。 ・生徒の安全に関わる破損等の箇所から優先的に改善している。	教職員アンケート【努力指標】 校内の管理箇所の点検を学期に1回以上行い、校舎の修繕を協働的に行うことができたか。	「定期的・協働的に安全点検を行うことができた」と答えた教職員の割合 A=95%以上　B=85%以上 C=75%以上　D=75%未満	・1，2学期末教職員アンケート ・C，Dのときは，改善策を検討する。